

## 佳作

## 記憶

東京都 北豊島中学校三年 愛澤 柚月

人の記憶はどこに宿るのだろうか。私がこのことについて考えたのは、去年の春、いつもそばにいてくれた大好きな祖母が亡くなったことがきっかけだ。祖母との日々は、私の心に深く刻まれて今でも鮮やかに思い出される。まるで思い出が私の一部となって宿っているようだ。

祖母は私と一緒に暮らしていて、毎朝笑顔で、「おはよう、今日も頑張ろう。」

と元氣よくあいさつしてくれる人だった。去年の年が明けてすぐに祖母が体調を崩して入院することになった。重い病氣ではないので、すぐ退院できるだろうという医者言葉通りに三ヶ月で退院してきた。以前よりも一回り細くなった祖母の手首を見て淋しい気持ちになったけれど、「やっぱり家が一番だね。」と変わらない笑顔に安心した。母が退院祝いにと祖

母の大好きなどんかつを作ってくれた。久しぶりの家のご飯の味に祖母はまた笑顔を浮かべていた。私も隣で食べながら、幸せな顔を見て胸がじんわりと温まるのを感じた。これから、また以前と同じように過ごしていくのだと思った。しかし、翌日祖母は家で静かに息を引き取った。突然のことで、すぐに理解が追いつかなかった。

数日後、祖母の部屋を片づけているときに引き出しから小さなメモ帳を見つけた。あとから気づいたことだけれど、そのメモ帳は私があげたものだった。祖母の綺麗な字で、「お母さんのご飯が一番美味しい。家族と食べる時間は宝物」と書かれていた。さらにページをめくると、「毎日お話しに来てくれてありがとう。いつまでもゆづちゃん成長を見ていたい」と私の名前が添えられていた。その文字を見た瞬間、涙が溢れた。最後に一緒に食卓を囲んだ夜が、小さい頃からずっと見守ってくれていた時の思い出が鮮やかに思い出された。

記憶はどこに宿るのだろうか。答えは人によって異なってもいいと思う。

私は、記憶はただ頭にしまわれているのではなく、心や頭、体中の細胞にまでも宿るのだと思う。今までの記憶は、思い出は私にとっての宝物だ。もう祖

母に会うことはできないけれど、祖母から伝えられた愛は私の中で生き続けている。

現在、私は中学三年生。進路や将来のことで悩むこともあるけれど、今までの記憶を思い出すと勇気が湧いてくる。何にでも挑戦したい気持ちになる。祖母が信じてくれたように、私も自分を信じて進んでいきたい。

人の記憶が人の存在そのものに宿るように、今まで作り上げてきた思い出の温かさは、私の心に光を灯してこれからもずっと支えてくれるのだろうか。